

福島第一原子力発電所の状況

2016年6月23日
東京電力ホールディングス株式会社

<1. 原子炉および原子炉格納容器の状況> (6/23 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	給水系：約2.5 m ³ /h	22.9	1.30 kPa g	A系： 0.00 vol%
		炉心スプレイ系：約1.9 m ³ /h			B系： 0.00 vol%
2号機	淡水 注入中	給水系：約1.9 m ³ /h	28.2	6.04 kPa g	A系： 0.04 vol%
		炉心スプレイ系：約2.4 m ³ /h			B系： 0.03 vol%
3号機	淡水 注入中	給水系：約2.0 m ³ /h	25.5	0.28 kPa g	A系： 0.04 vol%
		炉心スプレイ系：約2.4 m ³ /h			B系： 0.03 vol%

<2. 使用済燃料プール(SFP)の状況> (6/23 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	SFP 水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	25.7 °C
2号機	循環冷却システム	運転中	24.4 °C
3号機	循環冷却システム	運転中	23.6 °C
4号機	循環冷却システム	運転中	22.1 °C

※ 各号機 SFP および原子炉ウェルへヒドラジンの注入を適宜実施。

<3. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (6/23 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種 除去設備 (ALPS)	増設多核種 除去設備	高性能多 核種 除去設備
運転 状況	運転中*1	運転中*1	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット 試験中*2	ホット 試験中*2	ホット 試験中*2

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。 *2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

<4. その他>

- 2014/6/2～ 陸側遮水壁工事を開始。
2016/2/9 陸側遮水壁の凍結に必要となる工事が完了。
2016/3/31 11:20 試験凍結において、ブライン(不凍液)循環設備の健全性の確認等ができたことから、凍結運転(第一段階)を開始。凍結運転は建屋内滞留水と建屋周辺の地下水位が逆転するリスクを低減するため、三段階に分けて実施する計画で、第一段階では1～4号機の海側全面と山側の一部を凍結することで進めていく。
- 2015/5/27～ 構内で今後使用しないフランジボルト締めタイプのRO濃縮水貯槽の解体作業を開始。
- 2016/6/22 10:43～ 3号機タービン建屋東側に設置されている3号機逆洗弁ピット(※1)内に溜まった雨水については、2016年4月末頃にピット内水位が低下していること、および分析した放射能濃度が、セシウム137:12,000Bq/L、全ベータ:15,000Bq/L(※2)(5/18採取)であることを確認。なお、当該ピットから流出した雨水は、周辺の土壤に染み込み地下水に混入しているものと考えられ、3号機建屋周辺のサブドレンおよび海側遮水壁の内側で地下水ドレン等により汲み上げを行っていることから、外部への影響はないものと考えているが、流出抑制の観点から当該ピット溜まり水を3号機タービン建屋に移送を開始。
※1 復水器内には、タービン発電機を駆動させた後の蒸気を冷却するため、海水を通水させる配管が設置されている。その配管内を洗浄することを目的に、海水の流れを

逆流させるための弁(逆洗弁)が設置されたピット。

※2 当該ピット内にはフォールアウトによる汚染土壌や瓦礫等があり、その影響により溜まり水が汚染しているものと推定。

- 2016/6/22 10:18 頃、福島第一原子力発電所構内のH6タンクエリア付近で、協力企業作業員が移動していたところ段差から足を踏み外し右足首を負傷した。入退域管理施設救急医療室にて医師の診察を受けたところ、「右足脛腓骨骨折」と診断されたことから救急搬送の必要があると判断し、同日10:52に救急車を要請し、11:16に救急車にて福島第一原子力発電所を出発し、いわき市内の病院へ向かった。なお、当該作業員の身体に放射性物質の付着はない。(報道関係各位一斉メールでは10:23頃発生としたが、その後の確認により10:18頃発生と判明したため訂正)
その後、いわき市内の病院にて診察を受けた結果、「右足関節内果・外果骨折(約2ヶ月の加療を要する見込み)」と診断。

【1号機原子炉建屋カバー解体作業】

- 2015/5/15 6:45～5/20 13:11 建屋カバー屋根パネルからの飛散防止剤の散布作業を実施。当該作業期間中において、ダストモニタおよびモニタリングポストの値に有意な変動なし。
7/17 7:06～7/21 9:10 建屋カバー屋根パネル貫通孔からの飛散防止剤の散布作業が終了。
7/28 建屋カバー屋根パネルの取り外し作業を開始。10/5に全ての屋根パネルの取り外しが完了。

【サブドレン他水処理施設の状況】

- 2015/9/3 サブドレン他水処理施設運用開始。
9/17～ 地下水のくみ上げを昼間のみの間欠運転から24時間連続運転に切り替え。
- サブドレン他水処理施設一時貯水タンクBの分析結果[採取日6/16]について、運用目標値を満足していることを確認したことから、6/22 9:58～16:45 海洋へ排水。排水量は984m³。
- サブドレン他水処理施設一時貯水タンクCの分析結果[採取日6/17]について、運用目標値を満足していることを確認したことから、6/23 9:43～海洋へ排水中。
- サブドレン他水処理施設一時貯水タンクDの分析結果[採取日6/18]について、運用目標値を満足していることを確認。6/24に海洋へ排水予定。

【地下水バイパスの状況】

- 地下水バイパス揚水井 No.1～12 のサンプリングを継続実施中。

【1～3号機放水路の状況】

※1～3号機放水路については、1号機放水路上流側立坑および2号機放水路立坑において、セシウム137の濃度が上昇したことから定期的に水質調査を実施。

<最新のサンプリング実績>

- 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【H4,H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】

<H4・H6エリア周辺、福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

- 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【タービン建屋東側の地下水調査/対策工事の実施状況】

<地下水観測孔・海水サンプリング実績>

- 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

- 地下貯水槽 No.2 の貯留水については、汚染水保有リスクを低減するため、6/1 10:05 当該地下貯水槽から多核種除去設備への移送を開始。なお、当該地下貯水槽には、約 1,400m³ の汚染水を貯留しているが、本移送においては、多核種除去設備での処理状況や受入タンク側の空き容量も考慮しながら、既設ポンプによる移送が可能な水位まで、断続的に移送を実施する予定。
- 3/1 に採取した地下貯水槽 No.1 周辺の観測孔 A11～17 の地下水を分析した結果、前回値(2/2 採取)の全ベータ放射能が ND (ND 値 22Bq/L) であったのに対し、最大で 200Bq/L に上昇していることを確認。なお、当該観測孔は3年前に地下貯水槽からの漏えいが確認された以降、ND だったが、全ベータ放射能の上昇が

確認されたことから、漏えいの可能性も含めて調査を実施していく。

<最新のサンプリング実績>

地下貯水槽周辺の観測孔全ベータ放射能が上昇した件について、6/22 に採取した i ～ iii 観測孔の水の全ベータ放射能分析結果は、至近の分析値と比較して有意な変動は確認されていない。

地下貯水槽 i 南西側の漏えい検知孔水において全ベータ放射能が上昇した件について、6/22 に採取した水の分析結果は、至近の分析値と比較して有意な変動は確認されていない。

なお、過去の変動範囲内で全ベータ放射能に上昇傾向が確認された地下貯水槽 i 北東側の漏えい検知孔水、およびその他の分析結果についても、至近の分析値と比較して有意な変動は確認されていない。

引き続き、地下貯水槽および周辺の観測孔について監視を強化するとともに、全ベータ放射能が上昇した原因を調査していく。

以上